

中央大学支部 中大技術士会

ニュースレターvol.14

会員の皆様へ

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

このニュースレターは、会員相互の情報交換を目的に、会の活動内容とともに会員個人の様々な活動などについてお知らせするものです。なお、昨年本会が学会から支部に昇格したことに伴い、本会の名称は、「白門技術士会」から「中大技術士会」に変更となりました。ニュースレターでは、これまで通称として「白門技術士会」を使用してきましたが、本号より「中大技術士会」と称することとします。

本号では、年頭に当たり本会役員・幹事の抱負をお届けします。また、昨年本会会員が講師を担当した、中央大学理工学部都市環境学科の「技術者倫理」の講義に対する各講師の感想などを掲載しています。最後に活動計画を掲載していますので、みなさま各行事に奮ってご参加ください。

内 容	ページ
年頭に当たり：役員・幹事の抱負	2 ページ
■ 「100年後の中央大学と中大技術士会」：中大技術士会 会長 金川 護	2 ページ
■ 「今年度の抱負」：中大技術士会 幹事長 林 知幸	3 ページ
■ 「今年度の抱負」：中大技術士会 役員・幹事	4 ページ
活動報告	6 ページ
■ 第7回定時総会	6 ページ
■ 幹事会	6 ページ
■ CO2環境対策研究会	8 ページ
■ 中大法曹会との懇談会	9 ページ
■ 白門祭	9 ページ
エッセイ：中央大学理工学部都市環境学科「技術者倫理」講義の感想	10 ページ
■ 講師派遣事業への一参加者の始終 技術者倫理と日常業務 : 岩瀬暢男さん	10 ページ
■ 都市環境学科4年生対象の技術者倫理の講師をやらしていただいて：小柳拓央さん	14 ページ
■ 技術者倫理の講義を担当して：内藤堅一さん	16 ページ
■ 都市環境学科 第5回技術者倫理講義の報告：萩野太郎さん	18 ページ
エッセイ：会員の自己紹介	19 ページ
■ 小野塚喜代一さん	19 ページ
会員の受賞	21 ページ
■ 公益社団法人日本技術士会 会長表彰受：萩野太郎一さん	21 ページ
活動計画	21 ページ

はじめに会長と幹事長からのメッセージです。

■ 「100年後の中央大学と中大技術士会」：中大技術士会 会長 金川 護

新年おめでとうございます。本年も宜しく申し上げます。今年は中大技術士会が発足して8年になります。発足当時は右も左も解らずに、ただ突き進んできただけですが、ここ数年の中大技術士会の活躍は、目を見張る様です。また、年々活動範囲が広がっており、中央大学にも「技術者倫理」の授業や研究会、企業との共同研究等、大きく貢献しております。これも会員皆様の努力と貢献のお蔭とっております。さて、発足当時より、少し目が見えてきた状態で、100年後の中央大学のあり方と中大技術士会がどうなっているかを考えるのも、正月の一興と思います。



100年後には中大は早稲田、慶応と並ぶ私学の雄になっております。100年後の中大は国立大学の尻を負うのではなく、文科省の規制から離れ、独自の教育と研究を行い、世界の中で活躍できる人材の供給と、世界に誇れる研究成果を上げる大学になっています。そのためには大学の経営にも企業経営を取り入れ、お客（学生）に評判が良くなるように、比較的安い授業料で、大きな教育成果が出るようになり、世界中から卒業生の就職依頼が来るようになる必要があります。また、これからの研究のために医学部を作る必要があります。理工学部と共同で新しい医療器械や医薬の研究開発が求められます。

我々中大技術士会は発足当時から産学連携を目標としてきましたが、100年後までに理工学部の先生と一緒に100件のベンチャービジネスを立ち上げます。その内10件は東証一部上場の会社に成長する希望があります。技術士の皆さんはベンチャー企業の役員となって、日夜努力する必要があります。大学はベンチャー企業立ち上げの資金を供給し、成功した企業からは多くの配当金が得られ、大学の財政は豊になります。したがって、奨学金制度は充実し、研究費も十分出せるようになります。もっとも、多くの企業との共同研究が増え、外部資金も十分集まるようになります。

このように100年後を見ると、中大のこれからのあり方や中大技術士会の進む方向も見えてきます。中大技術士会は中大法曹会との連携を進めていますが、ベンチャービジネスの立ち上げのために南甲クラブや他の同窓会クラブとの連携も必要です。

また、中大の組織を一般企業のように柔軟に対応し、東大、京大の尻を負わない独自の大学のあり方を探求するための研究も必要と思います。こんな理念を掲げれば100年後には素晴らしい中大になり、中大技術士会も大きく大学に貢献することとなるでしょう。

私の夢は舌足らずで、細かいことを書きませんでした。皆さんも考えてみては如何でしょうか、夢は必ず実現します。

■ 「今年度の抱負」：中大技術士会 幹事長 林 知幸

今年度の抱負全般

昨年は、3.11の東日本大震災、東京電力福島第1原子力発電所の事故や大きな水害など多難な年でした。大震災の調査などに多くの技術士仲間がその任に当たっているため、総会を10月末に延期して実施しました。しかし、この間「科学技術と倫理（1年生対象）」と「技術者倫理（都市環境学科4年生必須科目）」に講師を派遣して、それぞれ成果を納めました。今年度も同じ講義に各2名、14名の講師を派遣することが決定しています。また、技術士ガイダンスを5学科延べ6回の開催を予定しています。これら学生に「技術士」を伝えるとともに、大学側に「中大技術士会」の存在を明らかにする活動をサポートしていきます。また、各先生方の研究を世の中に出すための側面支援を当技術士会が中心となって行っていききたいと思います。



行事参加

私は、可能な限り企画された行事に参加するとともに、各方面の折衝などに協力していきます。昨年の総会で中大技術士会は「4つの部会」で運営していくことが決まりました。幹事全員が4部会に所属し、すでに活発な活動を開始しています。その活動も幹事のみならず、会員全体の協力があって初めて成果を生み出すものと思います。今後、各部会から「行事」の呼びかけ、お誘いが多くなると思います。技術士として自らの研鑽と中央大学の発展、さらに中大技術士会の存在を確立するため、会員各位のご協力をお願いいたします。

部会名と主な業務	
総務部会	<ul style="list-style-type: none">• 総会・幹事会の開催、運営• 会則の運営、改定に関する手続き• 名簿の管理、会計管理• 学会事務局との連絡調整• 日本技術士会との連携• 他大学技術士会との連携等
広報部会	<ul style="list-style-type: none">• ホームページの管理• ニュースレターの発行• 本会の活動紹介 等
企画部会	<ul style="list-style-type: none">• 講演会の開催• 白門祭等の大学行事企画運営• 学部並びに学会他支部との連携等
大学支援部会	<ul style="list-style-type: none">• 理工学部との連絡調整（各学科技術士ガイダンスも含む）• 技術者倫理講師派遣の連絡調整• 理工学部の研究開発・知財支援等

大学との連携

前述のように、各種講義を通じて「中大技術士会」の存在が認められてきています。先生方との接触も拡大しつつあります。しかし、各学科で一人、二人です。技術の産業への活用に我々「中大技術士会」の力を発揮できる場面を拡大していきたい。それには、JSTなどが主催する「新技術発表会」などに参加し、先生方の「研究内容」を知り、先生との接触機会を増やしていきます。各種情報を会員各位に提供して「会員の力を結集できる」「中大技術士会」の総合力を向上させていきます。

■ 「今年度の抱負」：中大技術士会 役員・幹事

以下に、各役員・幹事から抱負を述べます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

	副会長 藤森 公彦	
	抱負全般	中大技術士会は8年目に入り、大学との連携が活発になってきており、多くの会員が参加しやすい道を探りたい。
	行事参加	法曹界との交流に積極的に参加し、技術と法の連携を検討したい。
	大学との連携	大学支援部会として、技術者倫理講師派遣、技術士ガイダンス、産学連携・知財支援等を確実にしていきたい。
	副会長 小林 進	
	抱負全般	中大技術士会のWebサーバを活用した広報活動、情報共有の促進。
	行事参加	昨年中止になったホームカミングデーには時間を作って参加したい。
	大学との連携	出身学科に拘らず、自分にできることを考えたい。
	副会長 内藤 堅一	
	抱負全般	副会長、企画部会長、CO2環境対策技術研究会幹事長としての役割を果たす。
	行事参加	企画部会として講演会、白門祭、法曹界との連携を企画・推進する。CO2研究会の開催。
	大学との連携	都市環境学科の「技術者倫理」講師としての参加、技術士ガイダンスへの参加。
	顧問 渡邊 潤三	
	抱負全般	明けましておめでとうございます。皆様方のご協力のお蔭でここまで会が発展できたことを厚く御礼申し上げます。私事で恐縮ですが、某プロジェクトに参加のため残念ながら来春まで技術士会の仕事ができなくなりました。ご了承願います。
	行事参加	
	大学との連携	
	幹事 鈴木 薫	
	抱負全般	今年は5年ぶりにODAプロジェクトにアサインされた関係で、思うように活動出来ずに年を越すことになりました。来年も前半は留守をしますので、しばらく技術士活動は休みの状態です。大学技術士会連絡協議会はその活動が認知されてきて、日本技術士会の対応もはやくなり、中身のある活動を継続していきたいと思っております。
	行事参加	
	大学との連携	
	幹事 笹尾 圭哉子	
	抱負全般	何事も一から始める気持ちで取り組みたいと思います。
	行事参加	忙しい毎日ですが、時間をやりくりして参加します。
	大学との連携	活動を通して大学を身近に感じています。自分も成長していきたいです。

	幹事 萩野 太郎	
	抱負全般	今年は古希を迎え、身辺整理をし、中大技術士会が行う行事への参加を増やしたい。
	行事参加	幹事会など。
	大学との連携	技術者倫理講義の最後の年、筏プロジェクトへの参加。
	幹事 染谷 繁実	
	抱負全般	リタイア2年目の今年は、できることを見つけて少しでも参加して行ければと思います。
	行事参加	内容的に参画できる場を見い出していきたい。
	大学との連携	管理工学科(現経営システム工学科)と接点がなく、今後の課題。
	幹事 高橋 宗純	
	抱負全般	業務多忙により、なかなか参加できませんが、少しでも御役に立ちたいと思います。
	行事参加	幹事会、総会、後援会、懇親会など出来る限り参加したい。
	大学との連携	時間の許す限りどうか。
	幹事 足立 元良	
	抱負全般	健康第一、ソーラセル筏構想の実現に向けて関係機関への参画勧誘
	行事参加	幹事会、CO2 環境対策技術研究会
	大学との連携	土木同窓会、技術者倫理講義の参加
	幹事 君島 光夫	
	抱負全般	日本技術士会との連携強化に向けて行動していきたい。
	行事参加	勤務条件等の条件がクリアできれば積極的に参加したい。
	大学との連携	特に都市環境学科との連絡・調整に尽力したい。
	幹事 坂林 和重	
	抱負全般	何でもチャレンジしてみようと思います。楽しい1年になればうれしいです。
	行事参加	ニュースレターをメインに頑張ろうと思います。
	大学との連携	「技術者倫理」と「資格取得」で協力できればと思います。
	幹事 松本 義弘	
	抱負全般	なかなか行事等に参加できないのですが、やれる範囲で今年も技術士会の活動に参画していきたいと思います。
	行事参加	
	大学との連携	
	幹事 篠崎 博文	
	抱負全般	エンジニアとしての新しい道を築いていく。
	行事参加	幹事会出席はもちろん、工場見学やレクレーションを含めた日帰り旅行の参加企画。
	大学との連携	研究室の手伝いや支援、兼任講師としての活動。
	幹事 河原 進	
	抱負全般	年齢を忘れ、今までの経験を少しでも企業に、ライフワークに活用したい。趣味の水彩画を続け展覧会に出展したい。
	行事参加	幹事会の出席、日本技術士会の会合・行事に参加と企画、日帰り旅行の企画と参加。
	大学との連携	研究室を訪問し、仕事先や、知人友人から得た知見から話題提供を図り、将来の研究テーマとして技術開発の一助にしたい。

	幹事 佐藤 儀一	
	抱負全般	幹事会にはすべて出席し、中大技術士会の発展に寄与したいと思います。
	行事参加	今年度は白門祭の技術士コーナーに参加したいと思います。
	大学との連携	講座の講師を務まるよう準備したいと思います。
	幹事 仲摩 俊男	
	抱負全般	電力グループの一員として、安定供給・コストダウン・品質安全に取り組んで、国内企業の計画的な生産活動に前向きに取り組みたいです。
	行事参加	時間的な制約は皆様同じと思いますが、裏方でも参加できればと思います。
	大学との連携	南甲倶楽部活動に事務方として参加しており、各方面から連携を図りたい。
	幹事 中尾 愛人	
	抱負全般	水道関係に長く携っていましたが、中大技術士会で他技術部門の方々との交流は、楽しく有意義です。
	行事参加	研究会や施設見学には積極的に参加したいと思っています。
	大学との連携	先輩として、理工学部学生の皆さんに少しでも役に立つことが出来ればと思っています。
	幹事 岩瀬 暢男	
	抱負全般	成果の"見える化"
	行事参加	技術士ガイダンス、都市環境学科技術者倫理、幹事会、総会に参加予定。
	大学との連携	なし(検討継続)
	幹事 小柳 拓央	
	抱負全般	地域・技術士会・業界活動への貢献
	行事参加	極力参加
	大学との連携	自分なりに出来ることでご協力したい。

活動報告

■ 第7回定時総会

日時：2011年10月29日(土)

場所：中央大学理工学部後楽園キャンパス 5336 教室

内容：14:00～15:15 第7回定時総会

15:30～16:30 特別講演「中大法曹会と中大技術士会の連携」

講師 中大法曹会 弁護士 大谷 隼夫氏

今年の総会は、東日本大震災があったことから5月の予定を10月に延期して開催しました。前年度の活動報告及び今年度の活動計画が了承され、部会ごとの活動内容を確認しました。

総会に続いて行われた大谷氏の講演は大変わかりやすく、見習いたいところの多いものでした。中大法曹会からも多くの方の参加をいただき、交流会も盛り上がりました。両会の今後の連携が楽しみです。

■ 幹事会

本会では概ね月に1度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。開催場所は、中央大学駿河台記念会館の学生会役員室か技術士会専手第二ビルです。役員、幹事以

外の会員の皆様にも参加していただけます。是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。役員・幹事一同お待ちしております。

下記に幹事会の内容を報告します。



駿河台記念会館



幹事会の様子

行事名	開催日程	活動概要
第1回幹事会	H23年4月9日(土) 13:00~15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・3月11日の東日本大震災に多くの会員が支援活動を行っているので、総会を秋に延期することを決定した。 ・「技術者倫理」「科学技術と倫理」の講義は、予定通り実施するので、講師各位の確認を行った。 ・総会提案の会則改定を審議した。 ・技術士(一次試験、二次試験)合格者に対する加入促進を討議した。 ・中大法曹会との交流を取り上げた。
第2回幹事会	H23年5月6日(金) 18:30~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ・「技術者倫理」「科学技術と倫理」の講義について経過と予定を確認した。 ・総会を10月29日(土)開催とし、各種議題の準備を確認した。 ・都市環境学科国生先生の「筏プロジェクト」の進捗状況を確認した。 ・学会総会で「支部旗」の授与式があるので参加者を確認した。
第3回幹事会	H23年7月8日(金) 18:30~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ・「技術者倫理」講義、1回~12回までの経過報告、「科学技術と倫理」の講義終了報告 ・総会時の特別講演に中大法曹会から講師を依頼することを決定した。 ・学会から支部旗が授与された報告があった。 ・支部格上げに伴い「通帳(郵貯)」の名義変更。
第4回幹事会	H23年8月29日(月) 18:30~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ・「技術者倫理」講義終了報告。 ・総会準備、会則改定条項確認、特別講演を中大法曹会に依頼することを決定。 ・大学技術士会連絡協議会の合同講演会の通知。 ・筏プロジェクトの経過報告。

行事名	開催日程	活動概要
第 5 回幹事会	H23 年 9 月 29 日 (木) 18:30~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ・総会を前にした各議題の最終確認を行った。 ・特別講演の講師を中大法曹会から講師の大谷弁護士に依頼した。 ・中大法曹会との交流会を 9 月 9 日実施した。 ・大学技術士会連絡協議会合同講演会が 9 月 17 日に日大校舎で行われた報告。
第 6 回幹事会	H23 年 11 月 25 日 (金) 8:30~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ・総会 (10 月 29 日実施) の報告。 ・総会で決定した「部会」の所属を確認した。新幹事の所属も決定した。 ・白門祭 (11 月 4 日~6 日) の報告。 ・次年度の「技術者倫理」「科学技術と倫理」の講師派遣について案が提示された。

各幹事会において CO2 環境対策技術研究会の経過報告、予定報告を行った。

■ CO2 環境対策研究会

本研究会は、地球規模の課題となっている CO2 対策について勉強しつつ、大学、企業等が持つ CO2 対策に係る技術の相互利用、或いは技術の移転や共同研究を円滑に進めることができる集まりとして 2008 年に発足し、今年で 4 年目になります。7 月から翌年の 6 月を 1 期としていますが、本号では前号 (2011 年 3 月 10 日発行) 以降の活動内容を報告します。

なお、詳しい報告は当会 HP (<http://www.chuo-u-pej.org/>) をご覧ください。

行事名	開催日程	活動概要
H22 年 第 6 回幹事会 参加者：幹事 7 名	H23 年 4 月 21 日 (木) 18:30~20:00	第 10 回研究会 (昭和炭酸) の応募状況：13 名 第 11 回研究会の企画 太平洋セメントを候補 第 2 回報告会の企画：8 月 23 日を候補とする 話題提供：スピルリナと炭酸ガスに関する話題
第 10 回研究会 参加者：見学会 30 名 交流会 16 名	H23 年 5 月 27 日 (金) 報告会 12:30~17:15 交流会 18:00~20:00	JR 東日本川崎火力発電所及び昭和炭酸・昭和電工の見学と講演「昭和炭酸の超臨界炭酸ガス利用技術の紹介」
H22 年 第 7 回幹事会 参加者：幹事 7 名	H23 年 6 月 16 日 (木) 18:30~20:00	第 10 回研究会 (昭和炭酸) の報告 第 11 回研究会の企画 太平洋セメント断念 エコセメント又は都下水処理場を候補に検討する 第 2 回報告会の企画：9 月 17 日を候補とする 発表は村上、大石、松本の 3 氏とする 話題提供：炭酸ガス分離膜 CCS について
H23 年 第 1 回幹事会 参加者：幹事 5 名	H23 年 8 月 4 日 (木) 18:30~20:00	H22 決算書 / H23 予算案、H22 活動報告書 / H23 活動計画、会員名簿の承認 第 11 回研究会の企画 エコセメント内藤幹事長、都下水処理場林幹事で具体化の交渉を進める 第 2 回報告会の企画：大学連絡協議会の合同講演会と重なるため 10 月 1 日に変更する
H23 年 第 2 回幹事会 参加者：幹事 6 名	H23 年 9 月 15 日 (木) 18:30~20:00	新規入会申し込みの承認 青木勝彦氏 第 11 回研究会の企画：エコセメント 11 月 18 日 (金) 第 2 回報告会の応募状況報告：現在 16 名

行事名	開催日程	活動概要
第2回報告会 参加者：報告会 15名 交流会 12名	H23年10月22日(土) 報告会 14:00~16:45 交流会 17:00~19:00	放射能のいろいろと原子力発電：村上会長 CO2吸収材の研究経緯と最新の情報：大石副会長 JR東日本におけるCO2削減の取組：松本幹事
H23年第3回幹事会 参加者：幹事6名	H23年10月27日(木) 18:30~20:00	第2回報告会(10月22日)の報告 第11回研究会(エコセメント)の応募状況：現在12名 第12回研究会の企画：昭和電工CO2分離技術 意見交換：大石教授のCO2吸収材の利用方法
第11回研究会 参加者：見学会13名 交流会8名	H23年11月18日(金) 報告会 13:45~16:30 交流会 17:15~18:30	エコセメント化施設の見学と講演「エコセメントの実用化と社会貢献の現況について」
H23年第4回幹事会 参加者：幹事11名	H23年12月15日(木) 18:30~20:00	第11回研究会(エコセメント)の報告 第12回研究会(昭和電工)の応募状況：現在27名 第13回研究会の企画：東京ガス(南千住)村上会長、 都下水処理場林幹事で次回までに話を詰める 話題提供：大石副会長の最近の研究 三井物産環境基金への応募について

■ 中大法曹会との懇談会

日 時：2011年11月10日(木) 18:00~

場 所：ホテルモンテラ・スールギンザ レストラン「サンミケーレ」

内 容：一昨年(2010年)10月に1回目の会合を持ってから2回目となる今回は、中大法曹会及び本会からあわせて約50名の参加があり、盛会裏に終わりました。今後、本会が技術的な側面で協力し、中大法曹会と連携していくことが期待されます。

■ 白門祭

日 時：2011年11月4日(金)~6日(日)

場 所：中央大学理工学部後楽園キャンパス6号館1階ロビー

内 容：昨年に引き続き燃料電池やスターリングエンジンのデモを行い、小学生から高校生まで理科好きの子供たちが熱心に説明を聞いてくれました。また、在学生には技術士制度についての説明も行いましたが、まだまだ知名度は低く、ガイダンスの必要性を感じました。一方で、技術士制度に高い関心を持ってくださった先生とお話することもでき、実り多い3日間でした。



エッセイ：中央大学工学部都市環境学科「技術者倫理」講義の感想

本年度、中央大学工学部都市環境学科で「技術者倫理」の講義（担当教授：國生剛治先生）が行われました。講義は4月～8月まで14回行われ、最初の講義を國生先生、2回目以降の13回の講義を当会が担当しました。4名の講師から講義の感想をいただきましたので、以下に紹介します。なお、講義は来年も行われます。

■ 「講師派遣事業への一参加者の始終 技術者倫理と日常業務」

：岩瀬 暢男（電気電子部門）

実務経験はあるが・・・

日常の業務を行う中での倫理に関する経験を学生にお話しして頂くものです。平成22年7月、白門技術士会からのメール広報に遭遇する。事業の概要は理工学部都市環境学科4年生の必修科目「技術者倫理」（2単位）を、翌年度前期授業（全14回）としてオムニバス形式により、國生剛治教授プラス13名の講師陣で行うとのことで、白門技術士会に派遣要請があったと紹介している。講師陣は、都市環境学科の前身である土木工学科出身者が中心となるものの同科に限定しないとあり、電気工学科出身者も応募可能なようだ。しかし、公共性の高い業務に従事することとなる都市環境学科の学生に対しては、自身の日常業務は公共性において距離があり、大丈夫だろうか。

現職、前職ともに技術者倫理を意識せざるを得ない業務にたまたま従事していたせいか、母校を応援したいとの気持ちを日常抱いていたせいか、事業への自薦の気持ちを抱き始めたのであるが・・・公共性の不安にプラスして、体系的な整理などしたことがないままに業務経験を学生に話すことが教育的視点から問題があるのではないかとの思いが生まれ、応募に踏み切ることができないでいた。実務経験はあるのだが・・・

応募へ・・・シラバスに苦しむ

応募には講義内容の提出が求められているため、シラバスの作成にとりかかる。シラバスが書ければ応募し、書けなければ見送りだ。テーマは過去の業務経験から容易に「技術論文と倫理」と定めることができた。

具体的な講義イメージを思い浮かべることができなければシラバスは書けない。イメージ作りに苦しむなか、1ヵ月内との提出期限も瞬く間だ。90分の中で、主題である「技術論文と倫理」に併せて、社会に貢献できる技術者の生き方の紹介（技術士の紹介など）、また授業時間内でのレポート提出課題も講義計画に組み入れるとの要望があるため、これら3者を関連させた展開についても考えなければならない。

シラバスのイメージが出来るにつれ、主題である自身の経験などは、体系的・学術的に整理したテーマ全体の中で

はほんの小さな一部分の領域にしか過ぎないものであることを強く意識するようになる。公共性



倫理の蔵書も多く、連携貸出にも利用した鎌倉市図書館（中央図書館）

と体系的との当初の不安を乗り越えつつあった応募案は、自身のちっぽけな職務経験を基にした誇大広告の様相を呈するものとなりはしないか・・・しかし、大学ステークホルダーとしての学生から見れば、体系的で広範な知識を得ることができることは好ましい方向であろう。幹事への数度の問合せを経ることにより、ようやくシラバスを完成でき、応募することとした。

書籍で経験の体系化を進める・・・テキストの作成（1/3）

講義テキストは数ページ以内と短いため原稿は容易にできると思えたものの、反面で極端な要点の整理が求められることから、これが再び苦労の種となる。

日常的に利用している鎌倉市図書館（前ページ写真）には伝統的な倫理だけでなく技術者倫理に関する蔵書も多い。関連する全蔵書を取り寄せることにより実務経験の体系的位置づけが見えてきたものの、それに対応するようにして授業主題である技術者倫理そのものの発起源や概念発生の歴史に対する認識の不十分さを知ることとなってしまった。

鎌倉女子大学図書館（右写真参照）と県内公共図書館は鎌倉市図書館との相互貸借を行っており、ここに貴重な技術者倫理の蔵書が存在する。哲学、伝統的倫理学、科学史、公民科教科書など、技術者倫理の発起源をたどることのできる資料を取り寄せた。特に鎌倉女子大学には意外にも技術者倫理に関する蔵書が多数揃っており、役立つものが多い。更に、その蔵書に至った経緯が当然ながら大学教育カリキュラムと連携しているようであり、技術者倫理の取り扱う範囲の広さを知ることも楽しい作業であった。



技術者倫理に関する蔵書が意外に多く、役立つ鎌倉女子大学（通学門）

図書館に蔵書されていない書籍で興味深いものについてはインターネット書店、日本技術士会、市中書店で購入せざるを得ない。繰り返し点検を必要とする内容や、整理のためのノート転記を要する書籍が結果的に多く、講義後も手元本・保存本として役立っている。

講習会で公共性不安を解消・・・テキストの作成（2/3）

大学講義方法を主題とした倫理講座の案内がタイムリーに日本技術士会から届いたので、テキスト作成と当日講義のためにさっそく受講を申し込む。「技術者倫理教育演習シリーズ」（全8回）として倫理委員会が主催した。

技術者倫理の全体系と公共性の整理にはうってつけの講座であった。講義時間内に毎回、課題レポートの提出が課せられ、ここでの課題の出し方、レポート形式の両面において大いに参考となるものであった。この講座はH23.6に終了したが、第二回を開催することが決まっている。

通常、大学における講義は理論と体系を習得した、または現在も研究中の教授職等にある先生によるものであるため、2コマの講義も時間が不足して困るほどの内容を保持しての授業となるのであろうが、本エッセイ執筆者のような実務経験主体の技術士においては1回きりがせいぜいだ。技術者倫理と言うと一見容易に聞こえていたが、教えるとなればある程度の体系的知識も必要とされる。これは前節のシラバス作りで述べた。

演習シリーズとは別に「研究倫理 - 責任ある研究活動を進めるために - 」との講演が日本工学会の技術倫理協議会主催で開催され、こちらを受講した。過去数年間に亘り委員を務めたことの

ある協議会であり、最新の第一線での問題点と、大学・独法での不正発生時の解決に向けた最新の取り組み体制を詳細に知ることができた。

更には「法廷と科学」、技術士会倫理綱領などの講座や意見パブコメ等に参加するなどを通して、ようやく6頁のテキストのイメージを描くことができてきた。

今年もまた不正の事例に事欠かない現実・・・テキストの作成（3/3）

倫理逸脱の事例については世界を、日本を震撼させた大事件もさることながら、最近・直近のものが学生にとってより強く興味を抱くものとなるのではないかと。

世界を震撼させた科学・技術論文上の大事件と言えば、ねつ造の事例として高温超伝導事件（ヤン・ヘンドリック・シェーン、ベル研究所）と、ES細胞事件（黄禹（ファンウ）錫（ソク）、ソウル大学）であろう。世界最大・前代未聞の意味で前者をテキストに紹介した。NHKBSドキュメンタリーで紹介されたことから広く知られることとなった大事件であり、これを知る学生もいるであろうと思いとりあげた。

盗用の逸脱行為については残念ながら毎年発生し続けていて、講義の事例には事欠かないのが現実である。学生に身近との観点から一昨年（H22.3）国内で起きた論文盗用による学位取消し事件をテキストに紹介した。

二重投稿も残念ながら例年頻繁に発生しているため、多くは逸脱“事件”として取り上げられないままに処理されることが多い。発生コミュニティにより倫理逸脱の判断は異なることから、もともと“事件”にはなりえない背景があるため（新聞掲載がなされないため）広く知られることがなく、事例探しも難しい。

エッセイ筆者の実務経験もこの類に属したものであり、本事業への応募のきっかけではありながら、その説明に難しさを感じつつテキストに残した。しかし、これだけでは説明不足の状況と思い、国内大学での“事件”として今年の新聞に掲載された「外国専門誌への二重投稿及び自著日本語論文の英訳投稿事件」（H23.1）をテキストに紹介した。

スライド枚数・・・1枚2分を目指したが

スライドスクリーンを見るのは疲れる。見る時間が一方的に講師にゆだねられ、落ち着いて読むことができない。大学講義にはスライドを不可としているところもあると聞く。その意図が分かるような気がする。

では、筆者は何枚のスライドを準備したのか・・・61枚！表紙と章タイトル等を除いても53枚！実に多すぎる。多すぎると分かりつつ削除することができない。2枚を1枚に集約する努力がせいぜいだ。その作業も尽きた結果がこの枚数とは・・・当日の学生の反応の状況を見て、使用スライドを選択使用するとの考えが残る。手を入れれば入れるほど枚数は増えるのみで、減ることがない。スライド能力のないことを自覚するものの、準備を万全にしてとの考えが優先してしまった。結果的にスライドは消化不良状態となり、反省の第一のものとなった。

演壇に立った感想としては、学生は真剣だということ。卒業研究がスタートする時期を迎え、学生自身も遭遇しかねない場面が多数登場することが真剣さを生み出していたのかも知れない。

技術論文で起きる倫理の逸脱行為

- (1) ねつ造（捏造）
- (2) 改ざん
偽造、変造、クッキング（選別）、
トリミング（整形）
- (3) 盗用
盗作、剽窃（ひょうせつ）
- (4) 二重投稿
- (5) ギフト・オーサーシップ
- (6) 不適切な文献引用
- (7) 不適切な謝辞

講義スライドから 論文執筆者は常にこれらのことに留意しているのだが

自分自身のものであるとして考えることが一番身につく。

教えることは一番の勉強

國生教授の言葉として、講座打合せ会において耳に残った。学会、講習会、企業において過去にも多くの講演を行ってきているが、今回の講義は実務経験のみが拠りどころであり、専門とするテーマではないことから、準備に多くの時間を割くこととしたのと、教えるためとして取り組んだ準備作業が実は筆者自身の真剣な勉強の場であった。

兼任講師との委嘱名どおり、まさに兼任で行うことの大変さもあるが、実社会の現実と経験から知るところを学生に伝えることが出来たのは大変意義深いことであった。

課題レポートは講義翌日すぐに採点した。倫理というとな時間の無駄、いまさら倫理・・・などと書いているのではとの危惧は払しょくされ、学生自身が明日にもその状況になるかもしれない自分の問題としてとらえたものがほとんどであり、都市環境学科の学生に安心を覚えた。技術職業人として羽ばたく前の心の準備の機会となったものと信じている。

都市環境学科の先見性

本事業の準備には2年以上を要したと聞く。授業担当教授及び白門技術士会幹部の方々の困難な課題への挑戦の気持ちや、事業の先見性に想いをする。実社会と繋がった教育に対する意義を認識され、学生を思う覇気に満ちた國生教授の決断が大きかったのではないだろうか。白門技術士会幹部の方々の先見と努力に対し、日頃メールを受け取るばかりの自身の状況に照らし、感謝の気持ちを表したい。講義当日には金川会長、藤森副会長、林幹事長揃っての応援と支援を頂きました。

最後に、全14回の講義のテーマを参考として記載する。

参考

- 第1回 (國生剛治教授) 授業構成・狙い、技術の役割、地球環境、公共事業、技術者の自己実現とは
- 第2回 環境調査などデータ捏造・改ざん事例、発生原因、技術者の対応、技術者倫理
- 第3回 技術者の役割、人材像、資格とキャリア、能力開発、目標達成の秘訣
- 第4回 技術論文と倫理、知的財産、著作権、二重投稿、捏造・改ざん・盗作、技術士資格
- 第5回 失敗から学んだこと、失敗とは、失敗の内容、失敗との付き合い方
- 第6回 町工場経営、なぜ技術士か、技術と技能の違い、モノづくりからみた技術者倫理
- 第7回 どんな環境・職業でも役立つ理工学の知識・技術、整体治療技術への応用
- 第8回 建設コンサルタントとは、私の体験業務、コンサルタント技術者の立場と倫理
- 第9回 建設コンサルタント発展経緯、日本の特徴、瑕疵責任補償制度、発注者の対応
- 第10回 建設コンサルタントの仕事、実務経験からみた技術者倫理、技術士資格の重要性
- 第11回 技術士試験と倫理、倫理と法・モラルの違い、利益相反、内部告発、技術士の資質
- 第12回 技術の意義、技術者の社会的役割、事例紹介、技術士資格の有用性
- 第13回 建設コンサルタントの今まで・これから
- 第14回 構造物の設計施工にみるトラブル対応(コンクリート、鉄筋、耐震、品質管理)

■ 「都市環境学科 4 年生対象の技術者倫理の講師をやらしていただいて」

：小柳 拓央（金属部門）

はじめに（ご挨拶）

小柳拓央でございます。私は、平成 4 年に土木工学科を卒業しました。卒業後は、カーナビのメーカーに 5 年間勤務し、現在、家業の塗装工場を継いでおります。昨年、金属部門で技術士試験に合格し、技術士登録しました。専門は、金属の塗装です。中大技術士会には、昨年の総会から参加、縁あって現在、幹事を仰せつかっております。



講師募集にエントリーした動機

昨年の総会に参加した直後に技術士倫理の講師の募集がありました。私は、迷わずエントリーしました。エントリーした理由は、“学生に伝えたい思い”があったからです。

それは、「技術士に対する固定観念を作ってはいけない。」ということです。

ある意味、当然の成り行きでしたが、土木工学科卒業であるが故、「技術士は、建設系の資格」という固定観念を、ずっと持っていました。そのため塗装に携わっている者として技術士は、無縁な資格と思っていました。

ところが、塗装のコンサルタントをする技術士の活躍を知り、それまでの固定観念が払拭されました。40 歳を前にして「技術士とは？」を調べていくうちに、今の自分に必要な資格と感じ、取得を決意しました。私の場合、これが巡り合わせと感じております。

しかし、学生の皆さんには、どの業界に進もうとも、技術者であれば技術士になれるチャンスがあることを、今のうちから、知っておいて欲しかったのです。それは本人のみならず、きっと社会にとってもプラスになると考えたからです。

準備で意識したこと

昨年の 8 月にエントリーし、今年の前期が授業でしたので、半年以上の時間がありました。スケジュールのイメージは、技術士 2 次試験の流れに似ています。（表 1 . 参照）

表 1 . 技術者倫理講義までの準備スケジュール

No	日程	内容	準備
1	8 月	エントリー	メールで応募
2	9 月	教員履歴の提出	A4 で 2 枚（審査用）
3	11 月	シラバスの作成	キーワード及び主旨（数行）
4	1 月	授業計画の作成	A4 で 1 枚
5	2 月	講師の顔合わせ	内容の確認
6	5 月 GW 明け	テキストの提出（講義 2 週間前まで）	A4 で 4 枚程度
7	5 月 17 日	講義の下見	
8	講義前日まで	パワーポイントの作成	
9	5 月 24 日	講義当日	講義 70 分、レポート 20 分
10	講義後	採点	

時間的にも、余裕がありましたので、まず倫理に関する情報収集とプレゼン能力の向上を図りました。特にプレゼンは、学生の視野を広げるという授業の主目的で必要と同時に、私自身にと

っても仕事で活かすための能力向上につながります。普段は、人前で話す機会が少ないため、意識して会合の司会や、金属部会の若手の会での発表等で練習をさせてもらいました。

また、中大技術士会での技術士1次試験ガイダンスの手伝い、および日本技術士会の1次試験合格者ガイダンス(1月末)のパネリストをやらせていただき、大勢の雰囲気にも慣れさせてもらいました。

準備で苦労したこと

講義のストーリー作りとプレゼンの仕方です。講義に向けての課題は、「話の流れを作り、いかに学生に興味を持たせ、飽きさせないようにするには、どうしたらよいか?」です。話の流れは、他の方の講演、NHKの白熱教室、YouTubeで予備校の人気講師の口調などを観察しました。

また、シラバスを提出した後、國生先生にお会いしたとき、「主旨がわかりにくい。学生に伝えたいメッセージが欲しい。」と助言を頂きました。これが、授業のストーリーの骨子になると考え、特に熟慮しました。

着々と準備を進めていたかに思えました。しかし、3月11日に発生した東日本大震災および原発事故により、これまでの人生感がすっかり変わってしまいました。この時期に、こんな内容で良いのだろうか?そこで、他の講師の方々に意見を求めました。先輩方からいろいろとご意見を頂いて出した結論は、「自分の出来ることをやる。」です。

この状況下、私が個人として出来るのは、ささやかな義援金の寄付と、物資の提供、目の前の仕事を精一杯やることくらいしかありません。しかし技術士としてなら、学生に自分の実体験を通じた講義が出来る。「未来の技術者に“魂”を入れる。」そう強い気持ちが沸きました。そう考えると、この講義も巡り合わせを感じます。

講義のテキストは、改めて4月から作成し始め、GW中に完成させました。

実際の講義にあたり

前の週の講義を聴講していましたので、雰囲気と様子がよく分かりました。学生は、態度が正直に出ます。飽きさせないための工夫として、当日までの1週間で、学生が関心を持つ「就活」の情報ネタを収集し、テキストにない時事情報をパワーポイントに追加し講義に臨みました。

当日の講義の冒頭、こう切り出しました。

私 :「“ものづくりの末端”と聞いて、どんなイメージを持ちますか?」

学生 :「・・・。」案の上、手が挙がる人がいません。

私 :「中学生でも答えられる質問に手が挙がらないのはなぜでしょう?」

私 :「恥ずかしい、誰かが答えればよい、無関心、馬鹿らしいなど、でしょうか?」

私 :「実は、これは倫理問題に直面した時に似ています。就活の際の態度にも表れます。」すると、多くの学生が興味を示した感触がありました。

講義中もパワーポイントは、テキストで表現できない図や写真、動画を加えて、補足的に説明することを心がけました。

講義の流れ	
1,	はじめに
2,	プロフィール
3,	ものづくりの流れ
4,	技術と技能
5,	QCDマネジメント
6,	倫理問題の事例
7,	技術者・経営者として大切にしていること
8,	困難に直面した時の対処
9,	研鑽する手段としての技術士資格
10,	学生に伝えたいメッセージ

講義の内容を表 2 . に示します。

途中、話が熱くなると、マイクを持っているのを忘れて口元から離れてしまうことがありました。後ろの人には聞きづらかったかもしれません。これは反省です。

また今回、プレゼンには、**グリーンレーザーポインター搭載のプレゼン用ワイヤレスリモコン**を購入し、使用しました。1万円程度です。マウスがいらず、手元でページ切り替えが容易で、講義の進行もスムーズになります。これは、お薦めです。(写真 1 . 参照)



写真 1 .ワイヤレスリモコン

おわりに

正直、技術士の口頭試験を受けたような感触でした。私自身は、全力で学生に熱い思いを伝えました。無事終えてホッとしています。しかし、評価は学生に委ねたいと思います。

講義の最後にも書いてもらったレポートの課題は、事例であげた塗装業界で実際に発生したトラブルについて、あなただったらどうするか？ 学生が将来就く職業での、倫理問題を想定させてどういう対応を取るか？ 講義の感想です。

回収したレポートを読むと、学生は、一生懸命書いてくれています。よく考えていてキラリと光る回答もいくつかありました。後で、改めてメールで感想をくれた学生もいて、うれしく思いました。

今回の講義は、学生の視野を広げる目的と同時に私の研鑽にも大いに役立ちました。また機会を頂ければ、学生に書いてもらった今回のレポートを反映したいと思います。

改めて國生先生をはじめ大学関係者の皆様、中大技術士会の先輩方に深く感謝申し上げます。

■ 「技術者倫理の講義を担当して」：内藤 堅一（建設部門）

はじめに

私は平成 23 年度の中央大学の「技術者倫理」に関する講義を 2 コマ担当することになった。一つは理工学部全学科の 1 年生を対象にした「科学技術と倫理」の講義、もう一つは都市環境学科の 4 年生を対象とした「技術者倫理」の講義である。いずれも大学から中大技術士会に講師の派遣を依頼されたものであり、「科学技術と倫理」は全 14 コマのうち 2 コマ、「技術者倫理」は全 14 コマのうち 13 コマを中大技術士会の会員が担当した。一つ目の講義は中大技術士会の藤森副会長から依頼されて引き受けたものだが、2 つ目は予期せぬ所から急に私にお鉢が回ってきたものである。「技術者倫理」は、会員に講師の公募をしたところ、定員以上の応募があり、今年はお役目なしと思っていたところ、大学から 70 歳以上の講師は遠慮して貰いたいという申し入れがあり、2 名欠員が生じて、私に講師依頼が回ってきたものである。



何を講義しようか！

1 年生を対象にした「科学技術と倫理」は、中大技術士会から派遣された 2 名の講師以外は大学の先生が講師であり、専門は理工学部だけでなく、法科、経済、医科、文学などが専門の先生もおられて多方面からの講義であり、私たちには実務経験を踏まえた話をと言うことであったので、私は建設コンサルタントに 44 年間勤務しているので「コンサルタント技術者の技術者倫理」

について話をすることにした。

1年生は大学入学後2ヶ月弱で、理工学部で何を学ぶのかも分からない段階であることを考えて、土木工学とは？土木工学科（現都市環境学科）の卒業生の進路、建設コンサルタントの業務とは？という所から始め、私の実務経験に結びつけ、設計業務での失敗例や、計画業務での地元の反対の事例や守秘義務等について話をすることにした。講義のレジュメを作成した後に3月11日に東日本大震災があり、原子力発電所の水素爆発等があった。これらの事例を取り上げようとの講師間でのメールでの意見交換があり、私は東電の原子力損害賠償法に基づく補償を取り上げ、一般の理工学部の卒業生が遭遇するであろう業務上過失致死傷罪 / 不法行為法 / 製造物責任（PL）法 / 建設コンサルタントのかし担保 について話を追加した。学生時代の間違えました、御免なさいでは済まされないプロの技術者の責任と、これらを含めた私の考える「技術者倫理」に触れることにした。

1年生の反応は？

講義を終えた後の反省会では、会長、幹事長からはまず難しすぎたというコメントであった。確かにいろいろ伝えたいという思いが強すぎて、1時間の講義に詰め込みすぎたかなと思い、講義後に書いて貰ったレポートを見るのが不安になった。5月24日（火）の講義後、5月27日（金）に第10回CO2研究会（昭和炭酸・昭和電工、JR東日本川崎火力発電所）があり、ここまではレポートの採点に手をつけられず、5月28日（土）にやっと採点することになった。読んでみると私が講義で話したことがかなり良く書かれており、ほっとした。10点満点での採点で、1回目で10点が一人、後日の2回目の採点では、10点を合計で9人にした。講師としては満足であったが、後の4年生の講義と比べると次のような違いがあり、良く講義を聞いて貰えた気がする。

受講生は約140人で400人の受講希望者から140人を抽選で選定し、座席指定をして着席させるという事務局の配慮が効き、知らない者が回りに座っている状態で緊張感があったため講義に集中してくれたものと思われる。

4年生の受講態度にびっくり！

土木工学科（都市環境学科）の4年生が対象であるので、土木工学とは？の部分は省略し、鋼構造の仮設橋脚での構造詳細を知らなかったための失敗例、工事中に予期せぬひび割れが生じた長い張り出し桁を持つ道路橋脚の事例等に時間をかけることにして、レジュメの基本的構成は変更しなかった。

4年生は約100人であるが、仲良しクラブが多く、一つの机に2人ずつゆっくり座れるのに、3人ずつ2列に着席する5、6人のグループが目立つ。おしゃべりも多く、授業中に寝たり、トイレに行く学生もいる、遅刻者が多いなど1年生のまじめでフレッシュな感じから見ると、高学年の方が勉強する姿勢に欠けるように思われたのは残念でならない。

私にとっては2回目の講義であり、余裕もできてそれなりに言いたいことは伝えた気持ちでいたが、例によって反省会では会長、幹事長から声が大きくなったり、小さくなったりして聞きづらかったというコメントであった。

同じ問題でレポートを書いて貰ったが、こちらは100点満点だが90点が6人で満点を付ける気にはならなかった上に、総じて記載量が少ない。1年生がA41枚にピシッリ書いているのに比べ、4年生の方が、手抜きが目立つ。何回かの他講師のサポートの中では、さっさと書いて余白

が沢山あるのに内職をしている学生もいた。

今後の課題

学生の視点を全部講師に集め、集中して講義をするには、講師の側にも訓練が必要と感じた。私の講義も勿論であるが、他の講師の支援に行って講義を聞くと私には非常に興味のあるテーマで講義をされても多くの学生が寝ているという光景が随分あり、幹事長と私が起こして回るということもあった。講義内容を精選すると共に、講義の仕方を中大技術士会で指導することの必要性も感じた。座席指定での着席も含めて、来年以降も続く講座であるので、技術士会としての工夫が望まれる。

■ 「都市環境学科 第5回技術者倫理講義の報告」：萩野 太郎（化学部門）

- ・日 時：5月17日（火）16：20～17：50（第5時限）
- ・テーマ：失敗から学んだこと
- ・キーワード：試練や逆境を前向きにとらえ、どう取り組んでいくか。

上記について講義を行い、課題として「あなたの今まで経験した一番大きな失敗はなんですか」「本講義の感想を記入しなさい」についてレポートを記入してもらいました。



それぞれレポートを提出いただいた中で標準的と思われる T 君の感想を下記に記します。

失敗との付き合い方を経験と共に講義してもらえて、今後の人生で失敗とうまく向き合う事が出来そうな気がします。過去の失敗した事におそれず、またこれからも失敗と向き合っていく姿勢は、わかった事、原因の究明し対策をして今後の展開へつなげていく事が重要だと分かりました。講義の最後には、失敗から学んだことを具体的に萩野さん自身の話を聞くことが出来ました、この中でほとんどの事が共感出来るものでした。また、こころの健康面からも話していただき、一つ違った面からも考える事が出来ました。今の時期に、とても良い講義を聞いて良かったです。

T 君以外にも立派な感想をレポートした生徒もたくさんいましたが省略します。講義の最後に以下のことで締めくくりました。

「以上が私の講義ですが、人によって違うと思いますが、振り返って失敗だらけの人生でしたが、良かったことが三つあります。

一つは中央大学で学んだこと、終生の多くの友人が得られました。今でもゴルフや飲み会など楽しんでいます。

二つ目は成長期自動車産業で働き多くの失敗から得るものがたくさんありました。

三つ目は技術士の資格を取り、お金もうけにはなりませんでしたが会社に勤めている時と異なりいろいろな出会いを楽しんでいます。」

私も 69 才になりましたが、ここまで生きてきて良かったと思います。社会は夢と希望をかなえてくれるとは限りませんが、これからの日本や世界を切り開くのは若い皆様だと思います。倫理はその行動指針の 1 つだと思います。勇気を持って失敗に負けずたくましく新しい事にチャレンジしていただくことを期待して終わります。

エッセイ：会員の自己紹介

■ 「団塊の世代の第二ステージ - 入学・社会人・近況について - 」

：小野塚 喜代一（建設部門、総合技術監理部門）

御世話になります。昭和 48 年卒業の小野塚喜代一です。自己紹介を記します。入学して約 4 ヶ月はロックアウトのため授業を受けられず、新幹線の掃除、プラスチックメッキ、製本会社のアルバイトに勤しみながら、司馬遼太郎の小説を読破しました。体育の授業のシーズンコースでは、北軽井沢のワンダーフォーゲルのキャンプに参加しました。この経験が、その後の自然との交わりの契機になったようです。ワンダーフォーゲルに使用する装備は、靴以外は全て先輩のものを借用しての参加。その夏は、アポロ 11 号が初めて月面着陸を達成した年にあたり TV でニュースが流れていました。



授業は 8 月頃に開始し、1 年の授業は翌年の 4 月頃までであったような記憶があります。まともな授業は 2 年生のときが一番多かったのでは。

在学中はストやロックアウトがしばしば起き、あまり学業に専念できないで卒業した記憶があります。管理工学科の授業は、統計、OR、生産管理、基礎工学の集合体のような構成です。就職活動は景気が急激に悪くなる中で、模索の連続。

卒業後、株式会社長大橋設計センター（現(株)長大）へ入社。入社後の研修（2 週間）の後は、連日、午後 11 時前後までの勤務で、聞きしに勝る勤務時間となり銭湯にも満足に行けず、実家に急遽風呂場を増築しやっと健康管理ができた次第。

システムエンジニアとして入社した（確かにシステム開発部に配属）のですが、道路構造令の熟読からスタートし、道路部門との共同作業。最初の 5 年間は、道路がらみの仕事をしつつ、生活環境系の調査手法の開発・整備及び、調査・解析に従事しました。

その後、実験及び解析、環境の予測手法の検討・開発に従事。この辺りは、高校が電気科だったので、その知識を生かしての業務。結果として電気工学、音響工学、土木工学の知識を組み合わせた成果になったと思います。

業務の中心が計画系に移行する中、30 代後半頃の完了検査のとき、技術士でなくて管理技術者が出来るのかと（当時技術士の環境系の科目がなかった）、発注者（建設省の事務所の副所長）から指摘？を受け、一念奮発して学習し「道路」で技術士を取得。環境を中心とした計画系その他、道路系の管理技術者も担当。翌 2 年後「建設環境」の科目が創設され、社内第一号として取得、その後「総合技術監理部門」を取得。

技術士：総合技術監理部門（建設環境）、建設部門（道路、建設環境）

建設環境の技術士の資格を取得後は、以下の業務等を担当・技術指導しました。また、併せて、関連委員会（対外活動部会、災害対策関東、企画・ビジョン、品質向上推進）等に参画しました。

自然環境系の調査・保全対策等、土壌汚染関連計画・調査。

実務の経験を踏まえ、「リアルタイム広域工事監視システム」を開発（NETES 登録）

海外（ドイツ、スイス、フランス、アメリカ、他）の環境・道路事情の調査。

海外のウエットランドの保全・復元計画。

チョンゲチョンの現地視察と日本における適用性の考察。

(社)土木学会 試験問題作成委員（2007.2 ~ 2009.1）

(社)建設コンサルタント協会 関東支部 技術委員会委員長（2006.6 ~ 2009.5）

株式会社社長を定年退職後の現在は、第二ステージとして以下のとおり業務や活動等を行っています。

現在（第二ステージ）

株式会社 総合環境計画 取締役技術本部長兼東京支社長

以下の業務の技術管理、東京支社のマネジメントに従事。

環境基本計画、地球温暖化対策、再生可能エネルギー、電気自動車導入検討、廃棄物関連、環境アセスメント、ミニアセスメント、生活環境調査、河川整備計画、風環境、ハザードマップ、自然環境調査、自然環境保全・自然再生計画、交通計画、道路整備効果検討、自転車走行空間整備、駅前広場整備計画、開発系・流通業関連計画・調査

現在（アフターファイブ）

認定 NPO 法人自然環境復元協会の理事として、協会独自の CPD 制度の運営を担当、農村中山間地再生の活動を実施。

いばらき・環境再生医の会会長として、他の NPO と共に東日本大震災の復興支援活動を実施。

森林インストラクター茨城の準会員としてイベントに協力。

地元への貢献として、次の活動を実施。

- ・ 景観審議会、文化財保護審議会に審議委員として参画。
- ・ 自治会副会長（会長補佐）として地域の生活環境向上のため活動。
- ・ 地域の自然を生かしたミニ公園造りを地元住民と協働。

中央大学学員会 白門 48 会副会長、同ハイキング同好会代表（年 2 回、温泉同好会と共同企画で関東・信州周辺のハイキングと秘湯探訪を実施）。

所属学協会等

土木学会、日本技術士会、環境アセスメント学会、自然環境復元学会、認定 NPO 法人自然環境復元協会、森林インストラクター茨城支部、日本野鳥の会茨城

趣味など

トレッキング(地元のつくばハイキングクラブに所属)を年 5 回ほど実施。

自転車(クロスバイクで主に利根川水系の河川沿いをツーリング)

ピュアオーディオ(クラシック、ジャズ)、映画鑑賞、写真撮影

読書(紀行文、歴史小説、経済小説)

ガーディニング

ペット(トイプードル 2 匹)

会員の受賞

■ 公益社団法人日本技術士会 会長表彰受：萩野太郎一さん

本会幹事の萩野さんが2012年6月23日の日本技術士会定時総会にて会長表彰を受賞されました。萩野さん、おめでとうございます！

活動計画

以下に今後の本会の活動計画をご案内します。みなさん奮ってご参加ください。

行事	日程	内容
CO2環境対策技術研究会	2012年1月20日(金)	場所：昭和電工(株)川崎事業所 内容：見学会、講演会、交流会
技術士ガイダンス (都市環境学科)	2012年1月23日(月)	場所：中大理工学部 内容：技術士及び技術士制度の説明
幹事会	2012年1月27日(金) 18:30~20:00	場所：学会会会議室 内容：技術者倫理講師の件ほか
技術士会第一次試験合格祝賀会	2012年1月28日(土)	場所：学生会館 内容：当会の説明、入会勧誘
技術士ガイダンス (電気電子情報通信学科)	2012年2月1日(水)	場所：中大理工学部 内容：技術士及び技術士制度の説明
技術者倫理講義	2012年4月~7月 詳細な日程は未定	場所：中大理工学部 内容：技術者倫理講義に講師派遣
第8回定時総会	2012年5月(土) 詳細な日程は未定	場所：後樂園キャンパス(予定) 内容：講演会及び総会
科学技術と倫理講義	2012年5月~6月 詳細な日程は未定	場所：中大理工学部都市環境学科 内容：科学技術と倫理講義に講師派遣
ホームカミングデイ (八王子本校)	2012年10月 詳細な日程は未定	場所：八王子キャンパス 内容：ホームカミングデイ出展
理工白門祭	2012年11月 詳細な日程は未定	場所：後樂園キャンパス 内容：理工白門祭出展
中大技術士会主催講演会 2回~3回計画)	4月~12月	場所：後樂園キャンパスほか 内容：未定

今年度の技術士ガイダンスは、応用化学科(2011年12月21日)、生命科学科(1月11日)、物理学科(1月14日)、都市環境学科(1回目:1月10日)がすでに終了しました。

上記以外にも、

幹事会(ほぼ毎月)

大学技術士会連絡協議会の行事

CO2研究会行事

など、多くの行事を開催します。また、「大学との折衝」「各学部との交渉」なども行います。

会員のみなさまにも気軽にご参加いただきたく、役員・幹事一同お待ちしております。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 toiawase@chuo-u-pej.org

2012年1月号 中大技術士会 広報部会 発行